

プロジェクト報告 Project Reports

インド 『貧困削減のための農村開発』

サポート:国際協力機構(JICA)
2010年4月~6月

1998年よりICAジャパンは本事業対象地で活動を展開してきた。地域は山間部に当り、地盤が岩盤質である為、新規農地造成が難しく、平均所有農地面積は2ha以下である。ほとんどの世帯の所有面積が小さいことから、農業収入が十分得られない状態である。その為、日雇い労働や出稼ぎに出てしまい、青壮



女性)の参加率もよく、積極性も増していると感じられた。特に女性対象の講習会やヘルスチェックアップキャンプはICAでは5年以上も前に行ったことがあるが、今回のプロジェクトでは初の試みであった。しかし、予想以上に住民の反応は大きく、継続開催を希望する声も多く聞かれた。最近の研修等では比較的女性の積極的な行動を目にする。これは事業も3年目にはいり、住民の意識(特に女性)が徐々にではあるが、変わりつつある成果ともいえる。そのため、今後も継続して女性のエンパワーメントや住民のオーナーシップを高めるような活動を続けていく予定である。



カタルカダック小学校の植林プログラムには大勢の住民が集まった

年層の男性がいない世帯が多く、いたとしても農業以外の職を得られないためであり、その世帯の生活水準は近隣の農村と比べると劣っている。また天水農業のため、単位面積当りの農業生産性が改善しにくい状況にある。

ICAは、ジャワル、カンボリ、カタルカダック、アンダーレの計4村(人口 計約3,250人、約580世帯)を対象に計画された本事業は貧困削減を目的とし、持続可能な地域発展を図るため、有機農業/アグロフォレストリー/牛の糞を利用したバイオガス技術の移転、および灌漑設備の設置、地場産業となりうる協同組合形式の酪農産業の構築を行っている。

第三年次は、酪農経営トレーニングや女性の収入向上プログラム研修を行い、育苗場では21種類を14,000本植樹するなどした。小学校2カ所では、生徒と共に植林事業を行い、農民に3000本を配布。

これは夏期で住民の仕事量が雨期に比べ少なく、高い参加率が見込めるからである。どれも住民(特に



アンダーレ村における農業キャパシティー・ビルディングの様子



完成間近のバイオガス



JICAインドがバイオガス現場を訪問



女性の収入向上プログラム



ヘルスチェックアップキャンプの様子



カタルカダックで植林をするICA塚本



植林が終わり満足そうな生徒たち



カンボリ小学校で行われた植林の様子



牛と格闘中の少年